

令和6年度 第6回豊能町教育委員会会議（9月定例会）会議録

日 時： 令和6年9月25日（水） 午後2時00分開会

場 所： 豊能町役場 2階 大会議室

出席者：	教育長	板倉 忠
	教育委員	宮崎 純光
	教育委員	坂口 敏子
	教育委員	富永 彰一
	教育委員	小松 郁夫
事務局：	こども未来部長	仙波 英太朗
	教育総務課長	池田 拓也
	義務教育課長	峯 亜希子
	こども育成課長	高田 浩史
	生涯学習課長	中谷 匠
	教育総務課主任	横山 悟士

傍聴者： 2名

会議次第

○審議事項

なし

○各課・室からの報告

【教育長】

本日はご出席いただきありがとうございます。馬渡委員は出席の予定でしたが、都合により欠席になる可能性が高いとご連絡いただきましたので、よろしくお願いします。

それでは会議を始めさせていただきます。ただいま出席委員は4名でございます。過半数に達しておりますので、令和6年度第6回豊能町教育委員会会議9月定例会を開催させていただきます。会議録署名人を宮崎職務代理にお願いいたします。それでは議題に入りますが、本日は審議事項がございません。報告のみとなります。

9月13日（金）に大阪国際会議場グランキューブ大阪で文部科学省主催の、令和6年度市町村教育委員会研究協議会第3回が行われました。本町からは小松委員、富永委員と私の3名で参加させていただきました。

まず初めに、文部科学省より初等中等教育施策の動向について行政説明が1時間ほどありました。大まかな内容として6点ありまして、地方教育行政について令和の日本型学校教育についてどう進めていくか、どう教育委員会があるべきかということ。2点目が教師を取り巻く環境整備について、働き方改革のことでした。3点目がGIGAスクール構想推進ということでICTの活用のことでした。4点目が、不登校児童生徒への支援やいじめ対策について、いじめの重大事案について早期解決等の認識を改めるという内容でした。5点目に、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についての内容でした。最後に、特別支援教育の推進について、インクルーシブ教育の推進、さらなる充実に向けて文部科学省として取り組んでいくという内容でした。

その後、3つの分科会に分かれまして、他市町村の教育委員や教育長との協議をする時間が設けられ、小松委員には教育委員会の機能強化、活性化についての分科会にご出席いただきました。富永委員につきましては学校部活動の地域連携や地域クラブ活動の移行についての分科会、私は不登校対策の分科会に参加しました。今回参加された委員にご報告や様子を教えていただけたらと思っております。まず初めに小松委員よろしいでしょうか。

【委員】

私のグループは私を含めて4人でした。沖縄の方が欠席をされて、私と、兵庫県の養父市の教育長で元小学校長、それから岡山県高梁市の教育委員の方で小学校の教員だったそうです。私以外の2人は小学校の教員を経験している方でした。2人とも貫禄があるというか、素晴らしい方で、アドレスを聞いてあとからやり取りをしたのですが、お二人から返事をいただき、引き続き色々情報交換をしましょうという話をしています。

人口を調べると、2つとも市なのですがそこまで多くなく、かなり少子化で悩んでいる地域でした。養父市は近いうち幼稚園から高校までの一貫した共通したカリキュラムを開発したいと教育長さんは話されていて、またそれを教えて下さいという話をしました。

高梁市については、市なのですがかなり人口が少なくびっくりしました。そういう面という小規模な自治体での教育委員会の在り方という問題があります。さきほどの報告の中で紹介された、昨年12月の文部科学省からの報告書の中に、小規模教育委員会の今後について書かれている部分があります。そこでは例えば単独でやるだけではなく、近隣の教育委員会とも連携し色々なことをするというのもありだということでした。印象に残っているのは、高梁市の教育委員さんは兵庫教育大学の大学院を出られた方で、私も教わった先生を知っているのですが、大学院が終わってから教育委員の研修を彼女は積極的に提案して、色々勉強したり、ゲストを呼んで話を聞いたりしていました。

私たちも、こういう会だけではなく、日ごろから色々な形で情報交換をしたり意見交換したりすることを含めて、今回のような研修もしていった方がいいかと思いました。

【委員】

地域部活動の地域連携・地域移行という資料をいただいて、分科会に参加する前に、吉川中学校と東能勢中学校に部活動はどんな感じですかと聞いていました。その状況を分科会で話そうと思い、両校の教頭先生に聞きました。あとでそのこともお話をしたいと思い、義務教育課長には申し訳なかったのですが、資料を送り印刷をしていただきました。

裏面の、「部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備について」という資料で、20分程度のかいつままでの説明がありました。令和8年度から地域移行ができる

ような動きになっていますという話がありました。去年か一昨年もそういうことを言っていたが皆さんに言えてなく、しっかりと伝えたいと思いプリントにまとめてみました。この資料で一番気になったのは、全国的に人口が減り子どもが減っているため、クラブの数も減ってきています。ただ、子どもの減少に比べて、中学校のクラブ数は減っていないという話がありました。

バスケットボール部、陸上部、ソフトテニス部、バレーボール部と並んでいますが、これは全国的にクラブ数が多い順番に並んでいます。吉川中学校にも東能勢中学校にも確かに上位3つはあります。この上位3つのクラブについては全国的にどの学校にもあるクラブだと改めて思いました。どれも5%から8%、剣道においては14%も10年間で減っています。人数ではなく、学校にクラブがなくなっているという意味です。サッカーも減っていますが、バドミントンだけが増えているのは、オリンピックでこの頃バドミントンが強いからかと思いました。

その下にある、文化庁とスポーツ庁が大きなねらいとしていることとして、先生の働き方改革が大きいのかなと思うことと、一番下に書きましたが、地域で育てるということがすごく言われています。そういうような活動をしていくことがこれからの日本では必要ではないかと大上段に構えた言い方でした。

ただ実際のところ、地域に移行するということですが、資料に載せているようにHPを見てみると結局、学校部活動という形では、令和8年度から地域移行をするにしても、学校の平日の活動は残すという言い方をしていました。土日は地域の方に移行し、地域の方に見てもらい、子どもは地域のクラブに行く。学校のクラブと地域のクラブが一体化しているといいのですが、その辺がどうなるかはまだ各地域によるそうです。新潟では国の補助をもらい積極的に進んでいるということが後ろの方に書いてあります。

このクラブ活動について、正式には中学校では部活動と言われ、これは学習指導要領でも載っていて、部活動は教育的意義があると書かれています。学校の活動であるということは、学習指導要領を改定しない限りは多分改定はしないだろうと、文化庁からのお話がありました。

平日の活動は学校で行い、休日は地域で行うということですが、地域で行うといっても、例えば場所を提供したとしても指導者がいないのではないかと。そういうことで、教師の部活動への関与について、業務改善や勤務管理をしながら、土日についてはそれぞれの教育委員会が教師を指導者にするというを考えていくという話がありました。

話が長くなりますので、本町の話に戻りますが、東能勢中学校は6つのクラブがあるのですが、3年生が引退して今は4つになっているそうです。また1年生が入ってきたら復活するかどうかというところで悩んでいるという話がありました。東能勢中学校は多いときでも吉川中学校の半分くらいの規模でした。今はもっと少なくなってきました。

6年ほど前に教頭先生がまだ教頭ではなく教育委員会にいたときに、中学校同士の連携をするということで、吉川中学校と東能勢中学校でよく交流をしていたという話がありました。地域移行になってもそういうことを考えてほしいということをお話されていました。東能勢の特有な状況として、5、6年生が中学校校舎にいる関係で、中学校のクラブに小学校籍の先生が指導を助けているそうです。1クラブ3人制で指導ができていますので、丁寧な指導ができていたという話でした。

吉川中学校は、クラブ数と教員数の関係から複数担当制にしています。陸上部、ソフトボール部、卓球部と野球部は、地域の指導者・外部コーチが来ていて、休日の活動に来ていただけてかなり助かっているとのことでした。こちらも教頭先生に聞きました。

どちらの中学校も8割以上の子どもがクラブに参加しています。全員クラブ制というようなことを昔はしていましたが、今は中学生も強制的にクラブに入らないとだめだという指導はしていません。けれども8割の子どもが入っているということはやはりすごいことだと思いました。今も交流は、東能勢中学校の先生は吉川中学校に連れていきたいので、町の公用車を借り上げて生徒を乗せて行っているというような話でした。

吉川中学校では、東能勢中学校との合同は時々、町バスを借りる程度ですとのこと、少し温度差がありました。豊能町には2つの中学校しかないのと、箕面と能勢の学校との交流もありますので、町バスを使ったりしながら他所との交流をやっているそうです。

どちらの中学校も土曜日と日曜日のどちらか1日は休みにするのと、平日1日は休みにする。令和4年度のこの通達が出たときから、クラブは毎日せず休みをとりなさいということについて

は、両中学校ともその線引きでいっているそうです。

岡山県津山市と京都府向日市、それから沖縄県嘉手納町の方が参加でしたが、嘉手納町の方はやはり沖縄なので来られませんということでした。岡山県津山市は人口がやはり減ってっていて、30年というスパンで人口が20%減り、15歳以下も10%ほど減るということを見込んで今動いていますということでした。来られていた方は教育長でした。教育長は中学校の校長をしていたそうで、体育の先生で野球を指導していたから、私自身はクラブをなくしたくないとおっしゃっていました。本音ではそう言いながらも、中学校8校がそれぞれ個性的でうまく一律にまとめにくい状況があるので、令和8年度から休日の学校の部活動を中止ということで指示を出しているそうです。

やはり中学校の部活動は、高校野球ほどではないけれど、全国大会にいくとか勝っていくというようなことが運動部は特に願いがあるので、吉川中学校も陸上部が強いと校長が喜んでいますが、全国大会や近畿大会に行くことが、学校にとって大きなムードメイクができるということがあり、津山市も各顧問は一生懸命やっているとのこと。そこで、休日の学校の部活動を中止し、先生に特別な手当を出して、学校とは別な形でやろうとしている話でした。

そのためには、市の税金ですべてを賄うわけにはいかないので、クラブに来ている子どもから参加費をとるそうです。津山市の場合は、積極的に国の言う通りにしていこうという感じが感じ取れました。

京都府向日市は、市域面積が7.72㎢と非常に小さく、小学校6校、中学校3校で人口が全然減っていないそうです。阪急京都線の駅が2つくらいある市域らしいです。人口は減りもせず増えもせずで、生徒数・児童数も一定だそうです。先生たちも一生懸命やっているの、一応進めていかないとだめだということで、地域移行の話懇談会でしている段階ですという話でした。

私からは、2つの中学校が4・3・2制の義務教育学校になるということに目がいていて、あまりクラブの話ができていないということを率直に話しました。4・3・2制になると、7年生からクラブが始まるのでカリキュラムをどうするのだろうという話になりました。一緒にいるのであれば、5年生からクラブをしたらどうかという話が少しだけ出ました。例えば、ミニバスが放課後の体育館で行われたりすることとリンクし、5年生からにするとすごく充実したクラブ活動になるのではないかと、そういった夢があって良いですねという話になりました。7～9年生の3年間にするか、5～9年生の変則5年間にするかということがありますが、義務教育学校になればそういったことができたなら強くなるだろうなと思いました。長くなりましたが、報告は以上です。

【教育長】

私が参加した分科会では広島県坂町というところで、広島市から海沿いに東へ15分くらいの所にある小さな町です。地域的には山があって海沿いで、市街地みたいになっている所が1つと、少し離れて小さな町になっているところと2つに分かれて、お互いが行き来できる電車が走っているそうです。中学校は1校で大きい町にあり、小学校もそこに2校あり、離れた町には小学校だけを残しているそうです。離れたところに住んでいる中学生は電車を使って中学校に通っているそうで、そこまで大きな町ではないそうです。

3小1中で、不登校対応にSSR（スペシャルサポートルーム）というものを町で設置されておりました。そこにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置されておられました。各学校では、従前と一緒に保健室、図書室や相談室を利用して対応しているが、各学校の先生で対応しているのでとても難しいのが実態ですとのことでした。多様な学びの場を学校に作っていこう、居場所を作っていかなければならないというのが坂町の雰囲気でした。

あと、養父市の方がおられまして、国道中央線沿いで豊岡市の南側にありますが、とても広いそうですが、山間部なので統合のしようがないそうです。小学校は8校あり、中学校は3校、義務教育学校が1校あり、こども園が公立で7園あるそうですが定員は20人くらいだそうです。私立の幼稚園も3園あるそうで、私立の高校が2校くらいあるそうです。広いがゆえに学校がたくさん残っているそうです。

不登校対応については養父市のほっとステーション「kukuna」という場所があり、そこに不登校の子どもの居場所である教育支援センターを設置しているそうです。様々な専門家をそこ

に配置しているが、あまりに広いためあまり通ってくれないとのことで、結局は市内の5つの学校に校内サポートルームというものを設置したそうです。そこに専門の支援員・指導員を置き、学校に戻って来られる子どもができるようなサポートに変わってきましたと言われていました。どこも豊能町とどこか似ているなという感じがあります。

もう一つ、豊能町も課題なのですが、不登校についての状況把握が中々できないということがあります。心の健康観察を国も言っていますが、そのモデル校をしているそうです。アプリを入れてネット上で毎日自分の状況を報告するといった取り組みを始めたそうです。有料のアプリを使っているとのことでした。

どちらも本町と一緒に不登校の子が増加していて、本当に課題になっているとおっしゃっていました。両方とも教育支援センターを作られていて、専門家を配置し子どものケアをできるような形を作っていました。豊能町はできていないのでこれから頑張っていきますとお話をしました。

偶然にも小松委員と同じ養父市でした。私のところも教育委員で、元々は学校の先生だったそうです。3人とも学校の教員で、私よりは充分先輩でした。こういったところでネットワークができるといいですね。域内に高校まであるというのは強みなのでしょうか。

【委員】

養父市は、皆さんご存知かわかりませんが、教育を勉強した人間からすると、養父市というよりは八鹿高校というのが教育の歴史上で、私の世代では記憶に残っております。養父市の教育長にその話をすると、皆さんその話をされるので嫌なのですよとおっしゃっていました。

同和問題で街がすごく荒れて、先生方の多くが生徒と一緒に授業をボイコットしたという事件がありました。大変な混乱があった、教育の歴史上そういった場所になります。

言い忘れていましたけれど、3つの分科会で教育委員会としてやはり考えなければならないことは、文部科学省の今の方針と各自治体の方針を見た時に、今までどちらかという教育行政というのは、文部科学省からの規制とかが強かったです。法律上は他の省庁とは違って指導助言行政となります。他の省庁は行政指導という言い方になり、教育行政だけは指導行政という言い方で独特な行政府の機能を持っています。

改めて今回、課長の報告を聞いて分科会で2人と話をしていた時に、文部科学省は、教育行政は地方分権で各教育委員会がもっと自主的に独自にやっていいということを力説していたことが印象的でした。

しかし、部活動も不登校もそうですが、何かをしようとする、結局はお金と知恵と人がいないとできません。このことに対して、文部科学省は若干お金をつけてくれているけれども、だいたい補助は3分の1くらいみたいな感じです。

ただ、国の行政、教育改革の流れが中央集権的なものから、かなり地方自治体、地方教育委員会が独自に色々なことができ、むしろする必要があるということについて、私は特に強く感じました。地域や保護者と協力しながら子どもたちの学びや安全安心を守っていかないとだめだということですが、それは自治体の力が問われるのではないかと思います。豊能町は残念ながらお金が弱いところがあるので、知恵と人を出すしかなく、そこでは負けない気持ちで部活動や不登校のことをしていかないとだめだと私は感じました。

【委員】

津山市の教育長は元々中学校の校長で、私が言うと一応先生は言うことを聞きますが、中々若い先生がついてこないとおっしゃっていました。

【教育長】

報告は以上となりますが、何かご質問等ありますでしょうか。

【委員】

養父市の小学校8校、中学校3校というのは、1つの中学校の周りに満遍なく小学校があるのでしょうか。1つの小学校がそのまま中学校へ上がるのと、いくら小さくても複数の小学校から中学校へ集まるのとでは、また空気が違うのではないかと思います。そのあたりの話が聞けた

らまたいいなと思いました。規模が小さい方が、小中一貫校や義務教育学校は色々なことができる可能性があるなと最近思っております。

【委員】

私は東日本からこちらに来て特に感じるのですが、西日本は、それぞれの自治体を見ると色々と町村合併をしたりしています。それこそ何十年どころか、何百年の歴史を引きずっているから、私みたいに東北で育った人間からすると、この西日本の色々な歴史を抱えたところで、町村合併も難しく、学校の統廃合もそれぞれ旧村あったりすることで、中々できない状態です。単純に数字だけで、単学級で 5 人だったり 10 人だったりするのであれば、理屈的にいうと統廃合するべきなのです。

文部科学省の昨年度の報告書では、町村合併や、教育委員会を複数の市町村で運営するようには書かれていません、連携するようには書かれています。豊能町的には、能勢町ともっと仲良くしろと言われかねないわけです。他所から見るとお隣なのになぜできないのかと素朴な疑問を思われるようなことが、全国に多いような気が私はします。

だけれども子どもたちの学びの環境や質の保障を考えた時に、何が適正規模で適正配置なのか、私たちがきちんと議論しないといけないということは考えさせられます。

【教育長】

豊能地区は人事権を移譲してもらい、3 市 2 町の教育長が会う機会が多いです。連携ということに関しては昔と違って今は進んでいます。能勢町は 1 つの学校になって、豊能町は 2 校になります。どちらも助け合っていないとだめな状況なので、これからその辺は、連携・協力して豊能地区として豊能町も頑張っていないとだめだと感じました。またこういう機会があれば、今回参加させていただいて良かったなと思います。両委員ありがとうございました。続けて各科の報告に移らせていただきます。

【こども未来部長】

- ・ 9 月議会について

【生涯学習課長】

- ・ イベント関係について

【教育長】

他に何かございますか。無いようであれば、本日の議事はすべて終了しました。次回 10 月の教育委員会会議の日程ですが、10 月 31 日（木）午後 2 時から予定しておりますが調整が入るかもしれません。追ってご連絡させていただきます。以上をもちまして、令和 6 年度第 6 回豊能町教育委員会会議 9 月定例会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。

閉会 午後 3 時 21 分